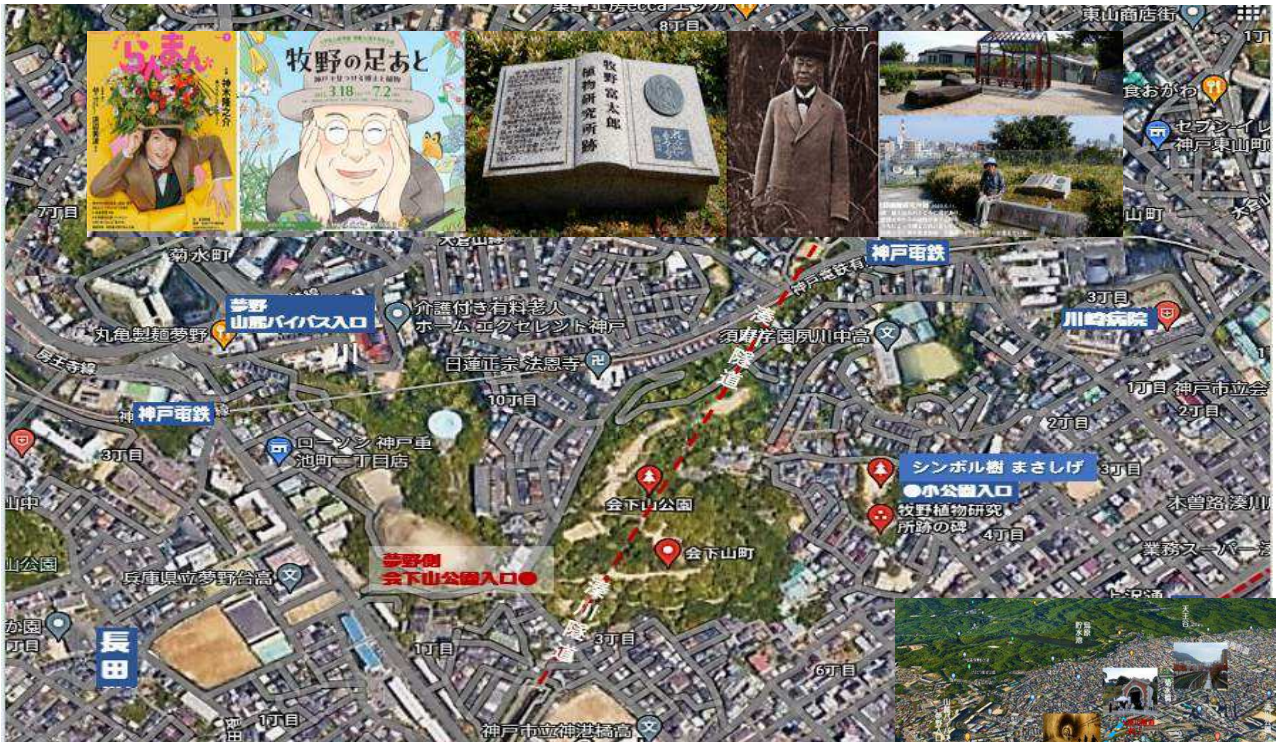
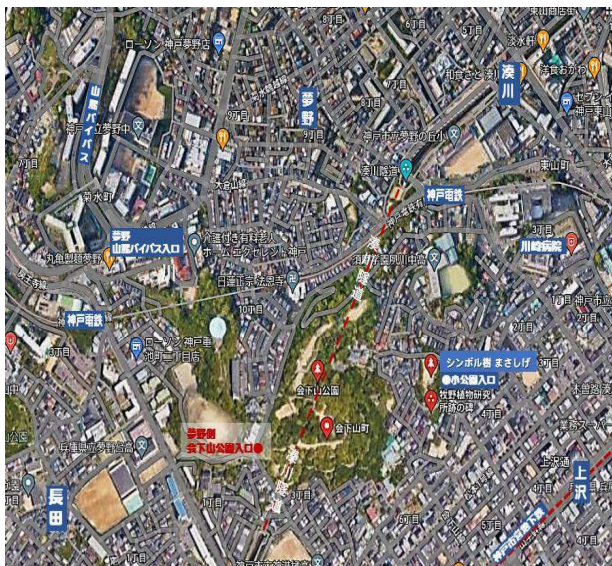


神戸市兵庫区の市街地 六甲の山裾「会下山」の丘に  
植物学者 牧野富太郎植物園跡地を訪ねる 2023.5.11.

R0506egeyamaweb.pdf  
by Mutsu Nakanishi



周囲を市街地に囲まれた標高80~85mの兵庫区と長田区に接する丘「会下山」  
早くから六甲の山裾の高台に開けた街ですが、街並を結ぶ生活道路が入り組み、  
丘の上へ登ったことがなく、いつも神戸電鉄の横から見上げていた「会下山」  
昨年11月末にも地下トンネルで潜り抜ける湊川隧道を歩いたところです。  
会下山のブームになる前に 一度見に行こうと家内と二人で会下山散歩に。



### 牧野富太郎植物園跡のある神戸市 会下山

山上は新緑につつまれ、市街地・港や六甲の山並を眺める広い公園に整備されていますが、地図が示す如く、  
丘の山腹はびっしり家並。古くは神戸の別荘地として開けた所で、丘を走るメイン道路や駐車場がなく、出かけにくい場所。  
でも出かけて、びっくり。山上は遊歩道が巡る広い山上公園。

新緑に包まれた公園からは神戸の市街地・港そして六甲の山並が一望。

公園の一角に、かつてこの会下山に別荘を有していた資産家「池長家」の支援により、世界に誇る植物学者牧野富太郎の植物研  
究所が開設されていました。私の家の近場にこんな素晴らしい散歩道がある。新緑の中 うれしい一日散歩になりました。

2023.5.11.午後 Mutsu Nakanishi

収蔵 植物学者 牧野富太郎植物園跡地を訪ねる 2023.5.11.



<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/walk20/R0506egeyamaweb.pdf>

<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/walk20/R0506egeyama.mp4>

<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/walk20/R0506egeyamaphoto.pdf>









この春 訪れた六甲植物園で 植物学者牧野富太郎博士の特別展「牧野の足あと-神戸で見つける博士と植物-」を観て、よく知らなかった神戸との繋がりを知りました。この牧野博士を描いたNHK朝ドラ「らんまん」が4月に始まって、植物採集一筋の世界的植物学者の姿と常識外れの生き方がTVに何度も映し出され、今 牧野富太郎ブームが起こりつつあると聞く。この牧野博士を支援した神戸の池長家ゆかりの地が、山麓バイパスから街中の湊川へ下る途中いつも眺める丘会下山。小さな丘ですが、長田と兵庫湊川の街を区分する丘で、つい最近もこの山の下をトンネルで潜り抜ける神戸の近代化産業遺産「湊川隧道」を歩きました。



この丘に 牧野富太郎ゆかりの牧野植物研究所跡が小公園として保存されていると何度TVなどで聞いた記憶はあるのですが、いつも下から見上げる緑に包まれた丘。興味津々ですが、丘へは登ったことなし。家内が牧野富太郎博士の神戸とのつながりについて、思い出したことがあるという。「旧の南蛮美術館は池長家の母屋だったと思う。また、かつて鳴門の大塚美術館内部に、陶板で再現されたバチカン システィーナ礼拝堂の献堂式にご一緒したカソリックの主教さんもこの池長家につながる人だったと思う」と 私にも少し記憶あり。会下山の丘は早くから開発された別荘地。地図を見ると周囲は市街地に囲まれ、狭い生活道路が入り組んで、家並みがびっしり。でも、頂上部は広い会下山公園に整備され、神戸の街一望。会下山のブームになる前に 一度見に行こうと家内と二人で会下山散歩。

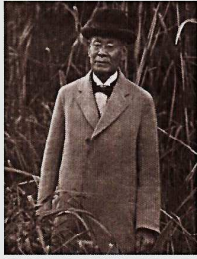
池長植物研究所跡で再整理の池長家ゆかりの植物標本(2021年3月)



六甲植物園特別企画展「牧野の足あと-神戸で見つける博士と植物-」より



## 牧野富太郎 (1862-1957)



(画像提供：個人所蔵)

高知県高岡郡佐川町出身の植物学者。  
「日本植物学の父」と言われ、命名した植物は1,500種類を超えます。  
全国各地で植物採集や講演会を行い、植物知識の普及に尽力した他、現在でも研究者から愛用される「牧野日本植物図鑑」を刊行しました。

### 牧野富太郎と神戸のかかわり

「植物学の父」と呼ばれた牧野富太郎博士は、必要と思った書籍は高価なものでもすべて購入するなど植物の研究に打ち込んだため経済的に困窮します。この時、手を差し伸べたのは、神戸の素封家池長孟<sup>いけながあきら</sup>でした。池長孟は植物標本10万点を3万円で買い取る<sup>えいげん</sup>、会下山に「池長植物研究所」を開設します。

これを機に、牧野博士は神戸を度々訪れ、市内各地で講演会や植物採集を行いました。

特に、六甲高山植物園には開園当時から何度も来園し、講話などを行っています。

## 神戸のゆかりの施設

### 会下山小公園 (神戸市兵庫区)



1918(大正7)年、会下山小公園に「池長植物研究所」が開所しました。牧野博士が蒐集した植物標本10万点が保管されていますが、現在は東京都立大学牧野標本館に保管されています。

### 六甲高山植物園 (神戸市灘区)

六甲高山植物園は、開園当時から牧野博士が何度も訪れ講演するなど、博士とゆかりの深い施設です。園内には、世界の高山植物や寒冷地の植物を中心に約1,500種の植物を見ることが出来ます。



## 神戸の植物園/鑑賞施設

### 神戸市立森林植物園 (神戸市北区)



### 神戸市立須磨離宮公園 (神戸市須磨区)



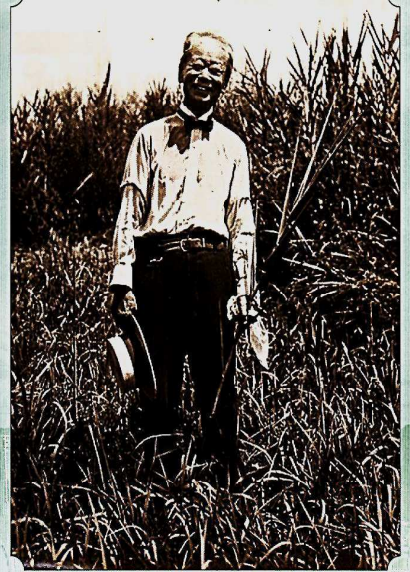
### 神戸布引ハーブ園 (神戸市中央区)



### ROKKO森の音ミュージアム (神戸市灘区)



## 牧野富太郎と神戸



(画像提供：個人所蔵)

六甲高山植物園で貰ったパンフレットより  
牧野富太郎さんと神戸の関係概略



## 牧野富太郎関連MAP



## 牧野富太郎ゆかりの植物

### アリマウマノズクサ (ウマノズクサ科)

見ごろ 5月-6月 鑑賞スポット 六甲高山植物園など



(画像提供：六甲高山植物園)

六甲山では、梅雨の時期にラッパのようなユモラスな形の花を咲かせます。1937(昭和12)年、牧野博士は五社駅付近の観察会で気づき、名づけました。

### ヒメアジサイ (アジサイ科)

見ごろ 6月-7月

鑑賞スポット 神戸市立森林植物園、六甲高山植物園など



(画像提供：六甲高山植物園)

ホンアジサイとともに日本の固有二大アジサイです。六甲山では花崗岩による酸性土壌のため、「六甲ブルー」と呼ばれる鮮やかな青色に色づきます。

### マヤラン (ラン科)

見ごろ 6月-10月 鑑賞スポット 神戸市立森林植物園など



(画像提供：泉立人と自然の博物館)

1987(明治12)年に摩耶山で採集された標本を見て、牧野博士が研究しました。葉がなく、地下部が菌類と共生して栄養をもらっている絶滅危惧種です。自生している姿を見るのは難しく、市立森林植物園では展示室で展示しています。

### クロガネモチ (モチノキ科)

見ごろ 10月-2月 鑑賞スポット 会下山小公園など

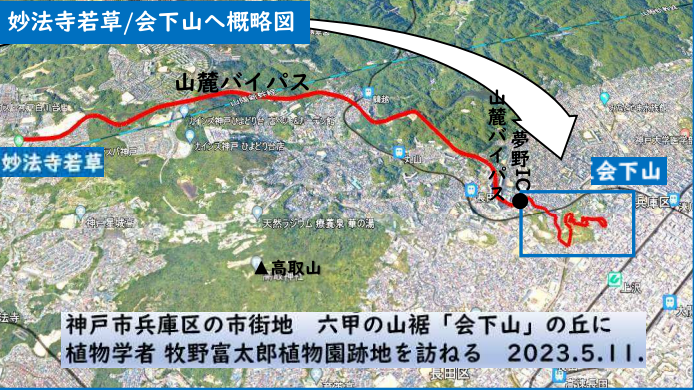
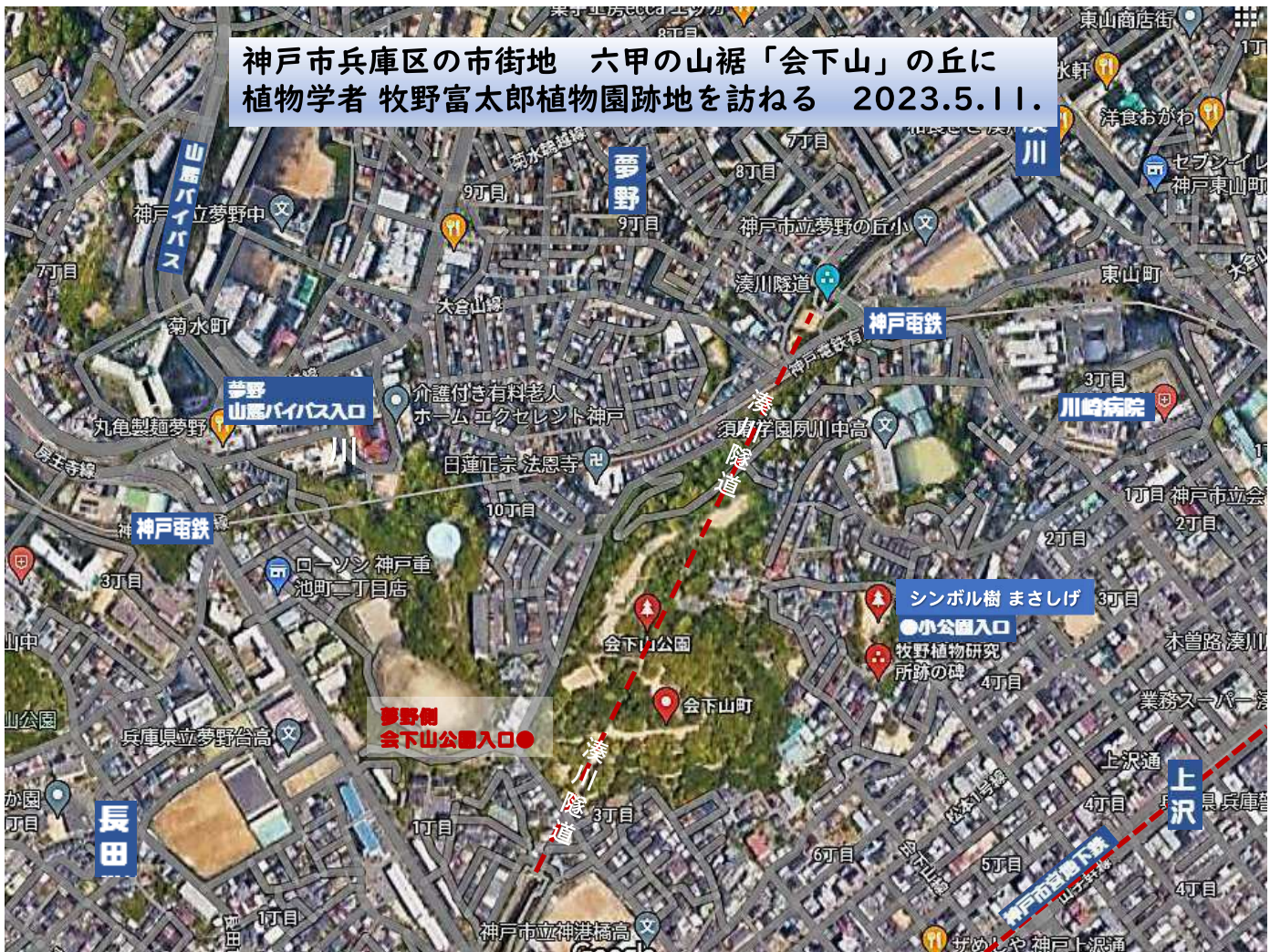


(画像提供：泉立人と自然の博物館)

冬期に赤い実を付ける庭木としては最大級のもので、牧野博士が池長植物研究所入口の左側に植えられている木の枝を送るよう知人に依頼しています。



神戸市兵庫区の市街地 六甲の山裾「会下山」の丘に  
植物学者 牧野富太郎植物園跡地を訪ねる 2023.5.11.















北東に新緑に包まれて 摩耶山頂が見えている 六甲会下山山頂部 会下山公園 2023.5.11.

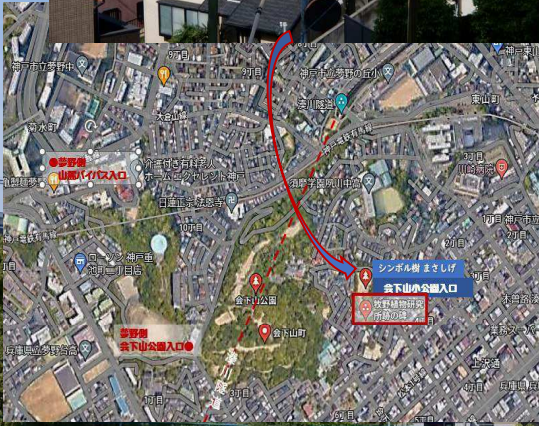


山麓バイパス側夢野の高台からの 会下山山頂 周辺 新緑が本当にきれい 2023.5.11.  
牧野富太郎の碑のある公園は、会下山山頂部の会下山公園にあると思っていましたが  
この会下山公園の南西下側の登り口 会下山小公園だと教えてもらって、牧野坂を下る



南東側 遠くに大開通NTTの赤白縞模様のタワーが見えている  
会下山公園 周回の散歩道で 2023.5.11.





会下山から見下ろす兵庫区湊川は大楠公楠正成ゆかりの地  
神戸の街を見下ろす会下山小公園北東端に大楠の巨樹  
会下山地区のシンボルツリー「シンボル樹まさしげ」とその案内板  
立派な大楠にビックリしました  
背後には再度山・摩耶山・六甲の山並も見える 2023.5.11. 会下山小公園で



## 会下山地区 シンボル樹(マサシゲ)

くすのき クスノキ科 (*Cinnamomum camphora*)

常緑の高木で、大きいものは幹周りが10mを超える。葉は卵形で表面に光沢があり、3本の葉脈が目立つ。3本の葉脈の付け根には、クスノキに害のないフシダニが生息するダニ室が2つある。新芽は赤く色づくことが多く、前年に芽吹いた葉は、新緑の頃に赤くなり落葉する。葉はアオスジアゲハの幼虫が食べる。5-6月に黄緑色の小さな花が咲き、秋には濃い栗実をつける。葉や枝には、防虫剤や医薬品になる樟脳を含み、独特の香りがある。

兵庫県の県木である。

神戸学院大学附属高等学校 教諭 高田泰正

神戸市は昭和28(1953)年から「神戸の名木」の選定が始まり、昭和51(1975)年「神戸市市民公園条例」に基づき「市民の木、市民の森」制度が確立され、指定された樹木など保全への取組みが望まれるようになりました。

平成19(2007)年10-12月市民団体の「花みどりネットワーク」がシンボル樹を市民の中から募集した結果、「まちのシンボル樹」144本が選ばれました。応募が一番多かった区、立地、樹種はそれぞれ中央区(33本)、公園広場(58本)、クスノキ(38本)でした。

会下山地区でも立派な樹木は公園広場のクスノキで、平成20(2008)年11月「会下山地区まちづくり協議会 11月度定例会」の日に有志の住民が会下山地区全域を手分けして「まち歩き」を行い、ここ会下山小公園(牧野公園)で元気に、凛々しく、格好よく生育中のこの「クスノキ」を会下山地区のシンボル樹に選定しました。愛称は日本歴史上会下山と関わりのある人物の一人が「楠木 正成」ですので、その名前を拝借して「マサシゲ」と命名しました。

今後は、シンボル樹の選定にとどまらず、まち中の草花やみどりを大切にして都市環境を良くし「会下山地区まちづくり協議会」が掲げる「緑のあたる 緑豊かな 丘のまち」のスローガン通り、成長し続けるまちづくりを進めていくことにあります。

会下山地区まちづくり協議会





兵庫区湊川は大楠公楠正成ゆかりの地  
神戸湊川の街を見下ろす会下山小公園北東端に大楠の巨樹  
会下山地区のシンボルツリー「シンボル樹まさしげ」  
背後には再度山・摩耶山・六甲の山並も見える 2023.5.11. 会下山小公園で



会下山小公園の広場には牧野植物研究所の跡地を示す案内板もなかったのですが、公園の縁に沿って 樹木の間から、すぐ下に小さな赤い建物と小広場が見えたのでそこが牧野植物研究所跡地と一段下へ回り込んで 牧野植物研究所の跡地の入口に。  
2023.5.11. 会下山小公園 牧野植物研究所跡地入口で





**池長孟氏の牧野富太郎植物学者への援助と「池長植物研究所」設立**

世界的な植物分類学者 牧野富太郎（1862～1957）は研究生活の早い段階から経済的困窮に陥っていた。大正5（1916）年には借金がかさみ折角集めた植物の標本を売却せざるを得なくなった。同年12月18日の大阪朝日新聞に「不遇の学者牧野氏植物標本十万点を売らん」と書かれた。池長氏は牧野氏の境遇に同情し「他人に先鞭をつけられてはならない」とすぐに援助する行動にでた。池長氏は父（池長通）から受け継いでいた「正元館」（現会下山小公園に在った建物）に植物の標本を引きとり、関西は勿論全国的にも存在しなかった「植物標本陳列所」の設立を企画した。しかし池長氏の徴兵によって志は残念ながら頓挫した。

**正元館**

明治44（1911）年校舎改築に伴って売却されることになった「兵庫尋常高等小学校」の木造瓦葺西洋風2階建講堂は、池長孟氏の父、通氏の尽力によって当初に移築され大正元年11月10月に落成会館され「正元館」と名付けられた。通氏はその功績によって名誉館長に任命されたが、大正3年に亡くなったため、建物その他一切が孟氏に譲られた。昭和16年に牧野氏に標本や蔵書を返した後、建物は海軍の軍刀を作る「菊水鍛刀会」にゆずられて利用されたが、戦後建物は取り除かれた。パーゴラの正面にあるマークは、当時の正元館に設置されていたものを模している。

会下山小公園の南西端の一段下の縁に沿って  
小さな広場があり、牧野植物研究所の碑がありました

北側から会下山小公園の外縁に沿って散策路を南へ歩くと、  
牧野植物研究所入口の案内標識があり、上へ登り詰めると  
ここに出る。  
奥の建物に案内板がありました。

2023.5.11. 会下山小公園 牧野植物研究所跡地入口で



**池長孟氏の牧野富太郎植物学者への援助と「池長植物研究所」設立**

世界的な植物分類学者 牧野富太郎（1862～1957）は研究生活の早い段階から経済的困窮に陥っていた。大正5（1916）年には借金がかさみ折角集めた植物の標本を売却せざるを得なくなった。同年12月18日の大阪朝日新聞に「不遇の学者牧野氏植物標本十万点を売らん」と書かれた。池長氏は牧野氏の境遇に同情し「他人に先鞭をつけられてはならない」とすぐに援助する行動にでた。池長氏は父（池長通）から受け継いでいた「正元館」（現会下山小公園に在った建物）に植物の標本を引きとり、関西は勿論全国的にも存在しなかった「植物標本陳列所」の設立を企画した。しかし池長氏の徴兵によって志は残念ながら頓挫した。

**正元館**

明治44（1911）年校舎改築に伴って売却されることになった「兵庫尋常高等小学校」の木造瓦葺西洋風2階建講堂は、池長孟氏の父、通氏の尽力によって当初に移築され大正元年11月10日に落成会館され「正元館」と名付けられた。通氏はその功績によって名誉館長に任命されたが、大正3年に亡くなったため、建物その他一切が孟氏に譲られた。昭和16年に牧野氏に標本や蔵書を返した後、建物は海軍の軍刀を作る「菊水鍛刀会」にゆずられて利用されたが、戦後建物は取り除かれた。パーゴラの正面にあるマークは、当時の正元館に設置されていたものを模している。







牧野植物研究所跡 2023.5.11.

南縁の植え込みのところに碑があり、  
牧野博士ゆかりの植物が会下山町の人たちによって移植栽培されていました。



### 池長孟氏の牧野富太郎植物学者への援助と 「池長植物研究所」設立

世界的な植物分類学者 牧野富太郎（1862～1957）は研究生活の早い段階から経済的困難に陥っていた、大正5（1916）年には借金がかさみ折角集めた植物の標本を売却せざるを得なくなった。同年12月18日の大阪朝日新聞に「不遇の学者牧野氏植物標本十萬点を売らん」と書かれた。池長氏は牧野氏の境遇に同情し「他人に先鞭をつけられてはならない」とすぐに援助する行動にでた。池長孟氏は父（池長通）から受け継いでいた「正元館」（現会下山小公園に在った建物）に植物の標本を引きとり、関西は勿論全国的にも存在しなかった「植物標本陳列所」の設立を企画した。しかし池長氏の徴兵によって志は残念ながら頓挫した。

#### 正元館

明治44（1911）年校舎改築に伴って売却されることになった「兵庫尋常高等小学校」の木造瓦葺西洋風2階建講堂は、池長孟氏の父、通氏の尽力によって当初に移築され大正元年11月10日に落成会館され「正元館」と名付けられた。通氏はその功績によって名誉館長に任命されたが、大正3年に亡くなったため、建物その他一切が孟氏に譲られた。昭和16年に牧野氏に標本や蔵書を返した後、建物は海軍の軍刀を作る「菊水鍛刀会」にゆずられて利用されたが、戦後建物は取り除かれた。パーゴラの正面にあるマークは、当時の正元館に設置されていたものを模している。



牧野植物研究所跡  
神戸の資産家 池長家の牧野富太郎支援概要の案内板





牧野植物研究所跡の碑 2023.5.11 会下山小公園で



牧野植物研究所跡 2023.5.11.  
 南縁 植え込みのところに碑があり、  
 牧野博士ゆかりの植物が会下山町の  
 人たちによって植えられました。  
 崖の向こうに神戸野市街地 大開通りNTTのタワーが見えている





牧野植物研究所跡への東側からの入口 2023.5.11.



牧野植物研究所跡から北側からの入口の坂道を眺める。  
丘の北側 湊川の町周辺 川崎病院が中央に見える。  
今日は丘の西 山麓バイパス夢野側から入りましたが、  
どうも東側の湊川から登るのが道がはっきりしていてよさそう





2023.5.11. 会下山小公園 牧野植物研究所跡地入口  
牧野植物研究所跡の東側から会下山小公園の縁を巡って牧野坂を上って、  
会下山山頂部へ戻る



牧野植物研究所跡の北東側入口から  
会下山小公園の下側 牧野坂を通って元の会下山公園を経て西入口へ戻る  
途中 緑に包まれた会下山善光寺に立ち寄って もと来た道に戻る。





会下山の山腹にある会下山善光寺 2023.5.11.



善光寺境内 平業盛塚 2023.5.11.



少年 武者 平業盛

業盛は清盛の弟教盛の末子である。

一の谷の戦に平家方は大敗離散し、当年十七歳の少年業盛は緋絨の鎧で連銭葦毛の馬に乗り、唯一人行先を案じつつ駒を渚に立たせて居た。折柄、源氏方泥屋四郎及び其弟五郎が追撃して来たのでこれを邀へて奮戦し遂に兄四郎と馬上に引組んで地に落ち、激しく揉み合ひ上に重なったまま古井戸に落込んだ。弟五郎は兄の危急を救おうとして、業盛の甲の鉦を力まかせに引き離そうと焦る。業盛は之を防ぎつつ兄四郎を殺そうとして一生懸命である。業盛は未だ少年とは云え其力は大人にも及ばぬ位あったので、彼が五郎を振り離そうとして首を振ったはずみに甲の緒が引き裂かれ、五郎は業盛の甲を持ったまま二間程も振り飛ばされた。併し五郎も亦、さる者で之にひるまず直ちに立ち上り業盛の首を打ち取った。

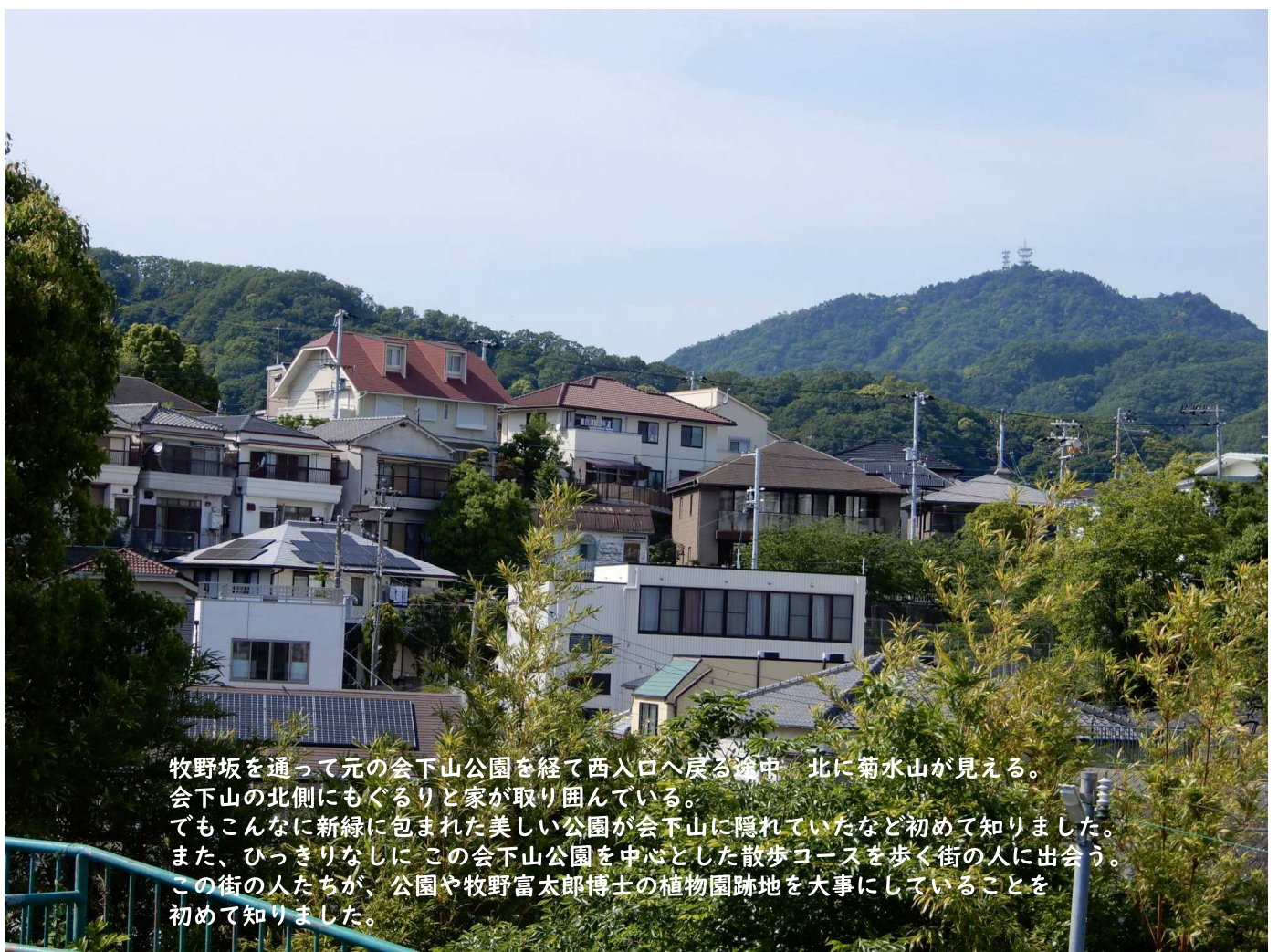
少年業盛の剛勇と怪力に敵も味方も其死を惜まぬものはなかった。

因に曰う、批碑の文字は兵庫の先賢 神田兵右衛門翁の筆跡である。

昭和十年二月十一日

神戸市兵庫区長 有方新次郎

看板製作日 平成27年7月吉日



牧野坂を通過して元の会下山公園を経て西入口へ戻る途中、北に菊水山が見える。会下山の北側にもぐると家を取り囲んでいる。でもこんなに新緑に包まれた美しい公園が会下山に隠れていたなど初めて知りました。また、ひっきりなしにこの会下山公園を中心とした散歩コースを歩く街の人に出会う。この街の人たちが、公園や牧野富太郎博士の植物園跡地を大事にしていることを初めて知りました。





会下山、山上部 会下山公園に戻ると南東側正面に 赤白縞模様の大開通NTTタワーが見え、  
背後に神戸港から神戸空港が見える 2023.5.11.  
背後大阪湾沿岸の背後に生駒山から奈良の山並うっすらと霞んでいる

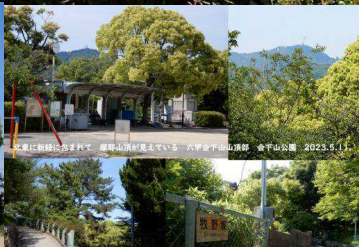


会下山公園西側入口に戻る 2023.5.11. 15:30.  
我が家のすぐ近くにこんな緑のよく整備された公園があるとはびっくり。  
途中 散策する大勢の人たちに出会い、この地の人たちに愛されている散策路なんだと。  
今度は南側の湊川から登ろうと。 牧野植物研究所跡など神戸との繋がりが、  
思いがけずも この地にあった池長家の足跡や会下山の歴史も知ってうれしい散策でした





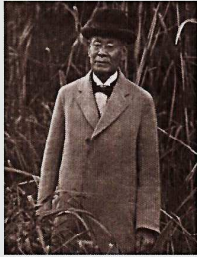
牧野植物研究所跡 2023.5.11.  
南縁 植え込みのところに碑があり、  
牧野博士ゆかりの植物が会下山町の  
人たちによって植えられました。  
崖の向こうに神戸市街地 大開通りNTTのタワーが見えている



牧野植物研究所跡 2023.5.11.  
南縁 植え込みのところに碑があり、  
牧野博士ゆかりの植物が会下山町の  
人たちによって植えられました。  
崖の向こうに神戸市街地 大開通りNTTのタワーが見えている



まきの とみ た ろう  
牧野富太郎  
(1862-1957)



(画像提供：個人所蔵)

高知県高岡郡佐川町出身の植物学者。  
「日本植物学の父」と言われ、命名した植物は1,500種類を超えます。  
全国各地で植物採集や講演会を行い、植物知識の普及に尽力した他、現在でも研究者から愛用される「牧野日本植物図鑑」を刊行しました。

牧野富太郎と神戸のかかわり

「植物学の父」と呼ばれた牧野富太郎博士は、必要と思った書籍は高価なものでもすべて購入するなど植物の研究に打ち込んだため経済的に困窮します。この時、手を差し伸べたのは、神戸の素封家いなか池長孟でした。池長孟は植物標本10万点を3万円で買い取ると、会下山に「池長植物研究所」を開設します。

これを機に、牧野博士は神戸を度々訪れ、市内各地で講演会や植物採集を行いました。

特に、六甲高山植物園には開園当時から何度も来園し、講話などを行っています。

神戸のゆかりの施設

会下山小公園 (神戸市兵庫区)



1918(大正7)年、会下山小公園に「池長植物研究所」が開所しました。牧野博士が蒐集した植物標本10万点が保管されていますが、現在は東京都立大学牧野標本館に保管されています。

六甲高山植物園 (神戸市灘区)

六甲高山植物園は、開園当時から牧野博士が何度も訪れ講演するなど、博士とゆかりの深い施設です。園内には、世界の高山植物や寒冷地の植物を中心に約1,500種の植物を見ることができます。



神戸の植物園/鑑賞施設

神戸市立森林植物園 (神戸市北区)



神戸市立須磨離宮公園 (神戸市須磨区)



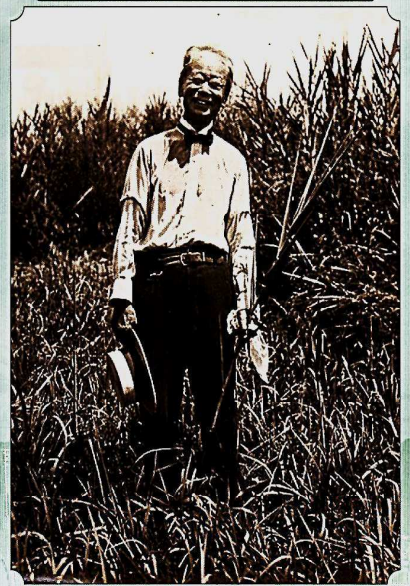
神戸布引ハーブ園 (神戸市中央区)



ROKKO森の音ミュージアム (神戸市灘区)



牧野富太郎と神戸



(画像提供：個人所蔵)



池長植物研究所2階で整理された博士の膨大な数の植物標本(1921-1930年)

牧野富太郎と神戸

この春訪れた六甲植物園で 植物学者牧野富太郎博士の特別展「牧野の足あと-神戸で見つける博士と植物-」を観て、よく知らなかった神戸との繋がりを知りました。この牧野博士を描いたNHK朝ドラ「らんまん」が4月に始まって、植物採集一筋の世界的植物学者の姿と常識外れの生き方がTVに何度も映し出され、今 牧野富太郎ブームが起こりつつあると聞く。

この牧野博士を支援した神戸の池長家ゆかりの地が、山麓バイパスから街中の湊川へ下る途中いつも眺める丘会下山。小さな丘ですが、長田と兵庫湊川の街を区分する丘で、つい最近もこの山の下をトンネルで潜り抜ける神戸の近代化産業遺産「湊川隧道」を歩きました。

この丘に 牧野富太郎ゆかりの牧野植物研究所跡が小公園として保存されていると何度TVなどで聞いた記憶はあるのですが、いつも下から見上げる緑に包まれた丘。

興味津々ですが、丘へは登ったことなし。

家内が牧野富太郎博士の神戸とのつながりについて、思い出したことがあるという。。

「旧の南蛮美術館は池長家の母屋だったと思う。

また、かつて鳴門の大塚美術館内部に、陶板で再現されたバチカン システィーナ礼拝堂の献堂式にご一緒したカソリックの主教さんもこの池長家につながる人だったと思う」と

私にも少し記憶あり。

会下山の丘は早くから開発された別荘地。地図を見ると周囲は市街地に囲まれ、狭い生活道路が入り組んで、家並みがびっしり。でも、頂上部は広い会下山公園に整備され、神戸の街一望。会下山のブームになる前に 一度見に行こうと家内と二人で会下山散歩に。





神戸市兵庫区の市街地 六甲の山裾「会下山」の丘に  
植物学者 牧野富太郎植物園跡地を訪ねる 2023.5.11.



会下山公園西側入口に戻る 2023.5.11. 15:30.  
我が家のすぐ近くにこんな緑のよく整備された公園があるとはびっくり。  
途中 散策する大勢の人たちに出会い、この地の人たちに愛されている散策路なんだと。  
今度は南側の湊川から登ろうと。 牧野植物研究所跡など神戸との繋がりが、  
思いがけずも この地にあった池長家の足跡や会下山の歴史も知ってうれしい散策に。









### 牧野富太郎植物園跡のある神戸市 会下山

山上は新緑につつまれ、市街地・港や六甲の山並を眺める広い公園に整備されていますが、地図が示す如く、丘の山腹はびっしり家並。古くは神戸の別荘地として開けた所で、丘を走るメイン道路や駐車場がなく、出かけにくい場所。でも出かけて、びっくり。山上は遊歩道が巡る広い山上公園。

新緑に包まれた公園からは神戸の市街地・港そして六甲の山並が一望。

公園の一角に、かつてこの会下山に別荘を有していた資産家「池長家」の支援により、世界に誇る植物学者牧野富太郎の植物園研究所が開設されていました。私の家の近場にこんな素晴らしい散歩道がある。新緑の中 うれしい一日散歩になりました。

2023.5.11.午後 Mutsu Nakanishi

### 収蔵 植物学者 牧野富太郎植物園跡地を訪ねる 2023.5.11.



<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/walk20/R0506egeyamaweb.pdf>



<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/walk20/R0506egeyama.mp4>



<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/walk20/R0506egeyamaphoto.pdf>